



愛川ふれあいの村 今月の風景

2020年11月 自然のたより

紅葉が美しく村を彩ります。赤や黄色は紅葉によるものだけではありません。黄色い花や赤い実も彩りを添えています。晩秋に生えるおいしいキノコのナラタケが村のあちこちで顔を出していました。秋の味覚を楽しむのは、なにも我々だけではありません。鳥たちも盛んに柿を食べる姿をよく見かけます。冬眠に備えた虫たちは、この冬をどのように乗り越えるのでしょうか。(石川)



紅葉したイロハモミジ



ナラタケ



成虫越冬するツチイナゴ



柿食うメジロ



コウヤボウキ



ヒメヤママゴ



キチジョウソウ



アキノキリンソウ



羽化したてのルリタテハ



フジバカマ



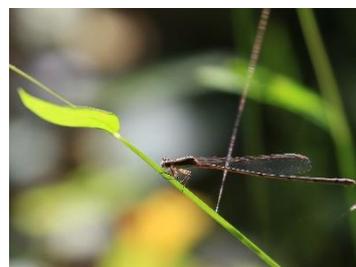
ピンズイ



リンドウ



ムラサキシジミ



ホソミイトトンボ (越冬型)



メギ

トピックス ★カラフルに色づく村★

今年も紅葉のシーズンになりました。村のイチョウやイロハモミジ、メタセコイア、カツラもきれいな褐色や黄色に変わり、見る人たちを楽しませてくれます。

紅葉とは、落葉樹の葉が落ちる前に、赤色または黄色に変わることです。赤く色を変えるものを“紅葉”（こうよう）、黄色に色を変えるものを“黄葉”（こうよう）、茶色に色を変えるものを“褐葉”（かつよう）とも言われています。赤色や黄色や褐色になるものを含めて、紅葉と呼ばれていることが多いですね。

紅葉をする村の木は、イロハモミジが印象的です。5本指のような葉をしていて、この葉を「いろはにほへと…」と数えたことからこの名前がついているそうです。黄葉はやはりイチョウ。愛川ふれあいの村のイチョウは、新聞や県のたよりも掲載されたこともあり利用者に親しまれています。並木は黄色一色に染まり、歩くだけでも気分が高揚します。褐葉は、メタセコイア。背が高いメタセコイア並木の木漏れ日は思わず息をのむ美しさです。

さらに、黄葉するカツラの木は、香りを楽しむことができます。葉が落ちて時間が経つとほんのりとキャラメルのような甘い香りを出します。紅葉のシーズンもあと少し、眺めても、香っても楽しめるカラフルな木々を満喫しましょう。（住友）



生き物 ★ミミズ★

子どもの頃の懐かしい思い出に、川での鰻釣りがあ。餌はミミズだった。鰻専用の細長い釣り針にミミズをつける。箸ほどの細長い竹棒の先に引っ掛けて、岩の間や石垣の穴に潜んでいる鰻をねらい、そっと差し込む。鰻が食らいつくと、棒を引き抜き釣り糸を引っ張り鰻を引きずり出す。ぬるぬるとした鰻は、すべり止めのカボチャの葉でつかみ釣り針を抜く。

愛川ふれあいの村の側溝さらいをすると、ミミズがいっぱいいる。腐植土はミミズにとって楽園なのだろう。ピンピンはねるミミズには今でも愛着を感じる。そしてそっと土を掛けてやる。（河野）



旬 ★さつまいも★

秋の味覚として『さつまいも』が思い出されますね。さつまいもは、ヒルガオ科・さつまいも属の植物です。原産地は中米です。日本には1600年ごろ中国から伝わり『唐芋』と呼ばれ、薩摩に伝わったことにより『薩摩芋』と呼ばれるようになりました。

古くから食べられている薩摩芋ですが、とても健康に良く、ビタミンC・食物繊維・カリウム・ポリフェノール等の栄養が含まれています。薩摩芋は、ゆっくり加熱すると酵素がはたらいて、芋のデンプンが糖に変わり、甘みが出ます。じっくり蒸すか、オーブンで焼くと美味しいです。焼き芋・天ぷら・スイートポテト等、調理によっておかずに、スイーツにと万能な食材です。お好みの調理で、栄養満点な薩摩芋食べてみてはいかがでしょうか。（菅原）



来月の見どころ

益虫、ホンヨリタアブ

紅葉する木々の足元を見ると、名の由来となる鮮やかな紺色をしたノコンギクが咲いていました。紫がかかった花弁と黄色の花が良く目立ち、ウラナミシジミやキタテハ、ヒラタアブが吸蜜したり花粉を集めているのを見かけます。

ホンヨリタアブは、花に止まる様子がとても面白く見飽きることがありません。何処からともなくそっと現れ少しずつ近づき止まる体制が整うと静かに止まるのです。花粉を落とさないようにそっと止まるその優しさや美しさに心を奪われてしまいます。成虫で越冬するの、暖かな日にはいつものようにホバリングをしながらそっと静かに止まる姿を見かけることが出来ます。

ところで、このヨリタアブの幼虫は、植物の新しい芽を食べるアブラムシを専門に食べているというから、人間にとってありがたい昆虫です。畑の野菜や花壇の花につく厄介なアブラムシをどんどん食べてくれるから益虫です。成虫越冬した親はアブラムシのいる場所を見つけそこに産卵するという賢さを持っているのも驚きです。

何気なく見ている小さな虫も人の知らない知恵を持っていて、知恵を知りアブラムシ退治に活かしたいと思いました。

（吉田）

